



# 倫理学専修

倫理学は、私たちが社会の中で他者とともに生き、ともに何かをすることについて考える哲学の一分野です。扱われるテーマも、いのちと心、自己と他者、教育・福祉の問題、正義と暴力、性とジェンダー、マイノリティなど多岐にわたります。こうしたテーマに取り組むには、古今東西の哲学・倫理学の文献研究を基礎としながら、読む力・考える力を身につけること、また実際に社会で問題になっている事柄に向き合い、異分野の人たちと対話する力を養うことが大切です。

自分でじっくり考えると同時に、人々との対話の中で考えを発展させる。こうした倫理学専修の教育プログラムは、大学院での臨床哲学にも接続されています。大学院生や社会人とともに、対話法のプログラムや、より具体的な問題について、調査、ワークショップ、研究会、シンポジウム等を行っています。

## 学生・受験生のみなさんへ

高校の「倫理」とは一味も二味も違って、倫理学には「自ら知り・学び・考える」ことの魅力があります。その楽しさと難しさの醍醐味を堪能(?)できます。

## 倫理学専修が目指すもの

古典的な哲学・倫理学の文献を読むことができ、なおかつ今の社会の現実問題を「自ら/他の人たちとともに」考えることができる。欲張りですが、これが専修の目指すものです。

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/clph/index.html>

<http://clphhandai.blogspot.com>

## 教員

堀江 剛 教授      ほりえ・つよし  
ほんま なほ 准教授      ほんま・なほ  
小西真理子 講師      こにし・まりこ

## どんな授業があるの?

### 【講義題目】

コミュニケーションの哲学  
ケアの倫理と臨床哲学  
マイノリティ・ワークショップ

### 【演習題目】

ソクラテック・ダイアログ文献講読  
フェミニズム哲学を読む  
ギリガンを読む  
哲学対話入門

## 何を学んでいるの?

### 倫理学講義/倫理学概論

倫理学の基礎的な考え方を身に付けます。前半は「倫理学説のテーマ」を幾つか取り上げ、その意義を解説します。後半は「現代社会の倫理問題」を考えます。

### 倫理学演習/p meets P

philosopher meets Philosopher. 小さな哲学者が大きな哲学者に出会う。哲学・倫理学の古典となっている文献をみなさんが選び、他の人たちに紹介する授業です。

### 倫理学演習/Ethics in English

英語による倫理学の講義。哲学的・倫理的な(多くの場合ヨーロッパ由来の)概念は英語でどのように表現されるのか、また私たちは英語でどのように議論できるか、などを学びます。

### 臨床哲学演習/ひろば臨床哲学

大学院生や社会の人たちとともに、哲学を「新しく作っていく」試みの場です。異なる分野や立場の人々との「対話」を通じた共同研究を重視します。

## 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

### キルケゴールとともに経験の固有性を考える

筆者は、キルケゴール『恐れとおののき』読解を通して、倫理的に「理解できない」ことを超えた共感の可能性を見出そうとする。そこに、障がい者を含めたマイノリティの(理解できないことに起因する)「差別」という現代的問題を接続させる意欲作。(選: 堀江剛 教授)

### 母と娘の関係を通して考える女性のアイデンティティ

母による娘への干渉や、容赦のない感情表現などは、娘を生きにくくさせており、他の親子関係にはない特有の煩わしさがある。それを発端として「女性であること」を共有していることに着目し、母と娘の間に生じる葛藤を通して、女性のアイデンティティはどのように成立するかを論じた。(選: ほんま なほ 准教授)

### 【卒業論文題目】

治療的対話におけるポリフォニーの位置づけ  
中傷発言と応答責任  
生き残るということ  
心と体の移ろ性: 性別の不調和とどう付き合うか  
退屈の中の意味の喪失  
「うまれ」と決定: 誕生に関わる自己決定を考える  
利己主義の重層性について

全く違った見方や知識に触れることができ、考えの選択肢が増えます。

学生  
インタビュー

この専修を選んだきっかけは？

**田中** 卒業論文のタイトルに人間関係・教育・身体論など多様なテーマが挙げられていて、ここだったらやりたいテーマを追いかけられるのかなと思いました。

**米倉** 研究室訪問のとき、研究室の雰囲気やわらかかったことに惹かれました。先生もちゃんと話を聞いてくれる感じがして、人で選んだ感じがします。

**二宮** もともと哲学系に行きたいと思っていたんですが、この研究室は哲学的思考を外さない形で、どんなテーマでも受け入れてくれそうな感じがしました。

**徳田** 日常生活と関わりのあるような仕方で、仏教や哲学を勉強したくてこの研究室を選びました。

研究室の魅力は？

**田中** 私は化粧について研究してきました。はじめはこれをどうやって研究にするのか分からなかったです。でも曖昧なものでも発表すれば、いろいろアドバイスをもらえます。その中で自分にじっくりする方法を模索できる土壌がここにはあると思います。

**米倉** 卒業研究ではない部分でもいろいろな学ぶ機会があるところがいいなと思っています。勉強会や読書会に

誘ってもらったり、開催したりして、自分1人だったら読まなかった本を読むことができたのもよかったです。

**二宮** 一つの研究室なのに、それぞれの先生がみんな違う関心をもたれている、全然違った見方や違った知識に触れられるのがいいところかなと思います。今、自分の関心を考える手がかかりが増えていると感じます。

**徳田** これは当たり前だよねとか、これはダメだよねというところにある声も切り捨てずに拾ってくれるところがあると思います。そういう考えに触れると、自分が今までどれだけのいろんなものを切り捨ててきたかということに気づけて面白かったです。

研究室で学んで変化したことはありますか？

**田中** 以前は研究することは、一つの独立した活動みたいなものだと考えていたんですけど、それは実際に自分がどう行動するかとか、どう生きるかということに関わっているんだと思うようになりました。

**米倉** 自分がどうなりたいかとか、そのためにはどうすればいいのかとかいうことをよく考えるようになりました。哲学って現実の生活にとっても関わりがあると思っています、例えば、なりたい自

分について、ことばで教えてくれるなと思います。

**徳田** 人と話すときに話し方が変わったと思います。対面した人と話しているときに、今まで自分が考えに入れてこなかったことを考えながらやりとりするようになりました。考えの選択肢が増えて、幅が広がりました。

後輩に向けて一言！

**田中** モヤモヤした気持ちを抱えている人、ちょっとした火種はあるけれど、それを考える方法がうまく分からないという人は、この研究室が合っていると思います。

**米倉** ここでの勉強は生き方にすぐ関わるなと思います。自分の生とか世界について考えることができます。

**二宮** この研究室にはいろんな関心を持っている人がいるので、自分の方向性が決まっていなくてもいろんな考えに触れることで、自分が考えたいことを見つけられると思います。

**徳田** この研究室はどんなことも切り捨てずに拾ってくれるところだと思います。まだ関心が決まっていない人いいと思います。

[インタビュー協力]

田中菜緒 (4年)、徳田颯人 (4年)  
米倉梨恵 (4年)、二宮晃紀 (2年)

研究室に関わる書籍をご紹介します。

書籍紹介



①

①『ドキュメント臨床哲学』シリーズ臨床哲学1巻  
ほんまなほ・中岡成文：編／2010



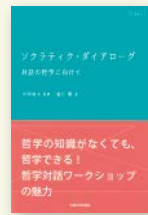
②

②『哲学カフェのつくりかた』シリーズ臨床哲学2巻  
鷺田清一：監修 カフェフィロ (Café Philo)：編／2014



③

③『子どものつくりかた：ケアと幸せのための対話』シリーズ臨床哲学3巻  
鷺田清一：監修/高橋 綾・ほんまなほ：著／2018



④

④『ソクラテック・ダイアログ：対話の哲学に向けて』  
シリーズ臨床哲学4巻 中岡成文：監修/堀江 剛：著／2017  
①～④大阪大学出版会



⑤

⑤『共依存の倫理：必要とされることを渴望する人びと』  
小西真理子：著/晃洋書房／2017